

## 第36回技能五輪国際大会

職業能力開発総合大学校 中野 弘伸

### 1. はじめに

第36回技能五輪国際大会（2001 SEOUL 36th WORLD SKILLS COMPETITION）は、韓国ソウル市で開催された。

わが国は39職種のうち31職種、33名の選手を派遣、金メダル：4、銀メダル：2、銅メダル：4、敢闘賞：10、と参加職種中2/3の入賞を果たした。前回のカナダ・モンリオール大会と同様、参加国中第3位の成績である。

韓国大会とあって、相当の苦戦が予想されたが、選手の活躍でその心配も不要であった。

また、今大会の注目の的であった精密機器組立て職種では、(株)デンソーの選手が五連覇を達成という偉業を成し遂げている。

以後、韓国大会を含めた技能五輪国際大会について説明する。

### 2. 技能五輪国際大会の概要

#### 2.1 目的

技能五輪国際大会（正式名称：WORLD SKILLS COMPETITION）は、22歳以下の青年技能者による国際大会であって、参加国における職業訓練の振興と青年技能者の国際交流・親善を図ることにある。

#### 2.2 国際大会の歴史

第1回大会は1950年スペインのマドリッドでスペインとポルトガルの2ヵ国、24名の選手で競技が行われた。第2回大会も同様に16名の選手で行われている。

第3回大会からドイツ、フランス、イギリス、スイス、モロッコが加わり、7ヵ国、65名の選手によって行われている。

第4回大会（1955年）はスペインのマドリッドで7ヵ国、25職種に83名の選手で競技が行われ、そのうち17個の金メダルを取ったスペインが圧倒的な強さを示した。

その後、年々参加国が増加、わが国は第11回大会（1962年）のスペイン・ヒホンに初参加、28職種199名の選手で競技が行われ、3職種に金メダルを獲得している。

第19回大会（1970年）は日本・中央技能センター（千葉・六方町）で開催、30職種に参加、274名の選手で競技が行われ、17職種に金メダルを獲得、過去最高の金メダル数となった。

第24回大会（1978年）は韓国・釜山で開催され、27職種に参加、239名の選手で競技が行われ、1職種に金メダルと最も少ない数となった。

第28回大会（1985年）は、日本・大阪で開催され、34職種に参加、304名の選手で競技が行われ、11職種に金メダル、8職種に銀メダルを獲得、千葉大会に次ぐ好成績を収めている。

第35回大会（1999年）はカナダ・モンリオールで開催され、32職種に参加、625名の選手で競技が行われ、6職種に金メダル、3職種に銀メダルを獲得、大阪大会以後、久しぶりの好成績となった。この間、参加国も増加し、現在は36ヵ国となっている。

なお、第37回大会（2003年）はスイス・サンガレン、第38回大会（2005年）はフィンランド・ヘルシンキ、



写真1 競技会場のCOEX



写真2 COEXの内部



写真3 COEX周辺の町並

第39回大会（2007年）は日本・静岡で開催されることが決定している。

### 3. 技能五輪国際大会への選手の育成

技能五輪国際大会に出場するためには承知のとおり、各都道府県の代表で、かつ、全国大会で優勝しなければならない。

したがって、国際大会に出場する権利を得るために各企業は選手の育成に並々ならぬ力を注いでいる。

現在、国際大会に多数の選手を派遣している大手企業では、技能五輪選手として、2～3年間特別な教育訓練を行っているのが実情のようである。

また、このような企業は技能的な情報も容易に得ることができるため、国際大会に出場しても、常にトップクラスの成績を得ることが可能である。

しかし、中小企業主体の職種では、選手の育成にもなかなか難しい面がある。また、このような職種では国際大会の会場に準備された機械・工具も自国で使用している物と異なる場合が多く、選手にとっては必然的に苦戦をしいられる結果となっている。

特に、欧米諸国では作業用の機器・装置にフルグループ機構が徹底しているため、取扱いに慣れることが要求される。

国際大会に出場した選手の意見のなかに、「日本で使用している機械と違って苦労した。」「腕に頼ることが多い日本に対し、たくさんの機械・道具を駆使

する国々とは競技にならない面もあった。」とある。

また、「メダルを取るためには」との質問に対し、「十分な情報が必要」、「練習」、「十分な道具」、「知識」、「応用力」、「経験」などと答えている。

### 4. ソウル市内の町並み

競技会場は漢江川を境に南側に位置するCOEXで行われた。COEXの周辺は韓国総合貿易センターやグランドコンチネンタルホテルなど、近代的な高層ビルが立ち並ぶビジネス街でもある。特に、これらのビルは地下街で接続され、昼夜、ショッピングを楽しむ人々でにぎわい、韓国経済が急速な発展を遂げたことを物語っている。

写真1～2は競技会場のCOEX、写真3はCOEX周辺の町並みを示す。

ソウル市内には景福宮や昌徳宮など、朝鮮王朝時代に建てられた王宮がある。

景福宮は1395年に創建された朝鮮王朝の正宮で、境内は15万坪と広大で、勤政殿をはじめ思政殿など13の建物がある。特に峨嵋山と香遠亭は自然の地形をそのまま保存しながら人工の建物と調和させた韓国固有の情緒ある風景である（写真4）。

民族村には韓国伝統の舞踊（写真5）や農民の生活状況を示す建物がある（写真6）。

また、韓国と北朝鮮の国境沿いにある統一展望台からは北朝鮮の建物と山々を間近に見ることができ

る。展望台の中の解説によると朝鮮側の山々の丸裸は、山の木々をすべて燃料に使用したため、それほど生活が困窮しているとのことである。写真7は展望台から見る北朝鮮の山々を示す。

ソウル市内にはいたる所に焼肉店や食堂があり、韓国料理を食することは容易である。

ガイドの説明によると、韓国では一般的に55歳が定年のため、定年以後の生活は小さな店を持ち生計を立てるのだそうだ。

日本を出発する前には教科書問題で日本人に対して排他的な感情があるものと思われたが、全くそのようなこともなく快適に過ごせた。

## 5. 国際大会

技術代表の私は6日から19日の閉会式まで、技術委員会をはじめ、品質保証管理委員会、総会と連日の会議に出席する必要がある、特に今大会から技術委員会のなかに、Quality Assurance Management

Systemが作られ、私はFairness and Transparency（公平性と透明性）の責任者として競技全体を審査する重要な役割を果たさなければならず、また、競技中は日本選手とエキスパートをサポートする任務もあり、ますます広い視野で判断しなければならないと実感した。

競技は前回のモンテリオール大会から、モジュール化が進められ、今大会では39職種中20職種がモジュール課題となった。

モジュール課題は4日間（22時間以内）毎日、競技課題が変わり、その日ごとに採点される方法である。採点結果は競技会場に設置されたコンピュータで表示され、選手の出来ばえを随時確認することが可能である。

なお、残りの19職種はモジュール化が困難な職種ともいえ、現在は従来の方式が採用されている。

しかし、今後も、モジュール化への検討が進められるであろう。



写真4 朝鮮王朝時代の建物



写真6 農家



写真5 韓国伝統の舞踊



写真7 統一展望台から見る北朝鮮



写真 8 開会式風景



写真10 木下選手と作品



写真 9 日本選手団

さらに、協議課題に関する情報も、インターネットを通じて公表するようになってきている。

例えば Trade No18 Commercial Wiring (電工) 職種の場合、モジュール課題はA～E課題まであり、A課題は選手それぞれが自国の技術基準に基づき、自由にレイアウトし配線作業を行う。B～C課題は与えられた施行図、回路図および仕様条件に基づき、配線工事を行う。D課題は既設配線の中の誤配線を持参した計測器で見付け出し、その原因を明らかにする作業である。E課題ではプログラミング機能を備えたインテリジェントビルシステム用のプログラミングリレーによる電灯制御のプログラム作成である。

このように、課題内容も幅広く、従来の配線作業のみならず、計画、設計、施工、維持管理に至るまでの内容となっている。

他の職種においても、このような考え方で課題が検討されているようである。

写真8～10は、開会式風景と作品を示す。

## 6. まとめ

技能五輪国際大会の発展と向上を目指し、技術委員会のなかにQuality Assurance Management Systemが作られ、選手の安全管理から、競技に対するFairness and Transparency (公平性と透明性) 等をチェックする機構ができたことは大変すばらしいことである。

そして、韓国大会ではじめて適用されることになり、常々、公平性と透明性に疑問を感じていた私にとって、大変結構なことである。

50周年を迎えるこの時期に、Fairness and Transparencyの審査をする責任者として大役を務めることになったが、無事、責務を果たすことができた。

この結果は次回のスイス大会で繁栄されることになろう。

前回の韓国大会を考えた場合、今大会は大変な苦戦をしいられると想像していたが、参加国中、金メダル数で第3位の成績は日本の技術・技能の底力を見せてくれた気がする。

わが国の選手育成に対する特殊事情から見れば最高の成績であったと言える。

今後、協会をはじめ、各企業、各業界団体のより一層の支援をいただければ幸いである。

最後に、国際大会に出場した選手のますますの活躍を期待すると同時に、協力してくださった関係者に感謝いたします。